一宮市

山車まつり情報

一宮市には、山車まつりが４つあり、それぞれ地元に密着して執り行われています。真清田神社の桃花祭の祭車２輌は時代とともに変遷はありましたが、中世から続く濃尾平野に分布する車楽（だんじり）と呼ばれる形態を伝えています。石刀（いわと）神社の石刀祭は頭人行事が残り、からくり人形を演じる３輌の犬山型の山車が曳かれ、6つの瀬古から馬が奉納されます。黒岩祇園祭と瀬部の臼台祭は、木曽川流域に広がる天王信仰の津島祭系の祭礼で、夕暮れに提灯を灯して曳き廻される光景は幻想的です。春の桃花祭と石刀祭、夏の黒岩祇園祭と臼台祭、周りの風景とともにお楽しみください。

情報の見方 ▶

地区名
まつり名称
祭礼場所
祭礼場所の住所
山車名称（組名等）
よみがな
山車等の特徴

馬寄
石刀祭
石刀神社
一宮市今伊勢町馬寄石刀２

大聖車（大聖瀬古）
だいしょうぐるま

建造時期：明和９年。旧練屋町車山（犬山祭）であることが最近の調査で判明した。からくり人形「唐子の綾渡り」を搭載。山車奉納の祭礼が盛んな愛知県にあって、山車・献馬と頭人行事が複合する唯一の祭礼。

馬寄
石刀祭
石刀神社
一宮市今伊勢町馬寄石刀２

中屋敷車（中屋敷瀬古）
なかやしきぐるま

建造時期：不明。「早瀬吉政」（江戸時代後期）の名がある。からくり人形「唐子の大車輪」を搭載。山車奉納の祭礼が盛んな愛知県にあって、山車・献馬と頭人行事が複合する唯一の祭礼。

馬寄
石刀祭
石刀神社
一宮市今伊勢町馬寄石刀２

山之小路車（山之小路瀬古）
やまのしょうじぐるま

建造時期：不明。中島郡片原一色の宮大工桜木茂助による明治22年の修復時の設計図がある。からくり人形「唐子の倒立と綾棒下がりの複合」を搭載。山車奉納の祭礼が盛んな愛知県にあって、山車・献馬と頭人行事が複合する唯一の祭礼。

黒岩
黒岩祇園祭
黒岩石刀神社
一宮市浅井町黒岩字石刀塚271-1

山車（黒岩）
だし

建造時期：不明。一年の月数12個の神木提灯と1年の日数365個の平提灯、役提灯、雨乞い提灯、献灯提灯など550個の提灯で山車を飾る。木曽川流域に広がる津島祭系祭礼で、黒岩独特の６曲のお囃しも受け継がれている。

瀬部
臼台祭
八剱社・観音寺
一宮市瀬部字大門53

山車（瀬部）
だし以前はヤマ・ウスダイ

建造時期：不明。平成４年の愛知県の補助金により、古い木製の山車を新調し、輪をゴムタイヤにし、提灯を差す竹籠や山車の一部をステンレス製にしている。巻藁提灯を臼のように回転させる。

真清田
桃花祭
真清田神社
一宮市真清田1-2-1

西車（真清田）
にしぐるま

建造時期：江戸時代初期。天正年間以前に建造され、天正年間に大破、江戸時代初期に再興。昭和16年から戦時下で曳き回しが中止となり、平成13年から桃花祭で展示されるようになった。別称「三明神の車」。

真清田
桃花祭
真清田神社
一宮市真清田1-2-1

東車（真清田）
ひがしぐるま

建造時期：昭和63年。天正年間以前に建造され、天正年間に大破、江戸時代初期に再興。昭和16年から戦時下で曳き回しが中止となり、昭和20年の一宮空襲で焼失。昭和63年再建し、桃花祭で展示されるようになった。別称「本宮の車」。

瀬戸市

山車まつり情報

品野祇園祭は、瀬戸市下品野地区で毎年7月第3土曜日の夜半に、1台の山車を中心として神輿や踊りの隊列が中心部を巡行する、厄病除け、夏病み除け、豊作・商売繁盛を祈願する祭礼です。江戸時代の地誌には祇園祭や山車に関する記載が全くみられないため、山車を伴う祭礼の始まりは遡っても江戸末期から明治初期のことと思われます。山車上層の中央には神武天皇像、その左右にやや小ぶりな従者像が配され、山車のご神体として祀られています。かつてはからくり人形としてそれぞれ腕を動かすことができたようです。

品野
品野祇園祭
津島神社周辺
瀬戸市品野町2-40

山車（品野）
だし

建造時期：今日まつりに使用されている山車の本体部分は明治20年頃の建造とされる。下層部に大幕を巻き、上層部にはからくり人形「品野祇園祭の神武天皇像及び従者像」（作動不可）を搭載。

春日井市

山車まつり情報

春日井市では「内々神社御舞台（おまいだい）」と「玉野山車附からくり」が残り、市の有形民俗文化財に指定されています。「内々神社御舞台」が所在する内津町は、庶民の道「下街道」沿いにあり、御舞台製作時、市内だけでなく、美濃地方からも寄付が寄せられたそうです。神社社殿と同じく信州諏訪の「立川（たてかわ）流」宮大工による彫刻が見どころです。「玉野山車附からくり（二福神）」が所在する玉野町は、周辺で高蔵寺ニュータウンを始めとする開発が進む中、昔ながらのお祭が残り、山車曳き廻し、山車からくり、神楽のほか、棒の手や火縄銃が披露されます。

玉野
祇園祭
五社神社等
春日井市玉野町1404等

二福神（玉野）
にふくじん

建造時期：不明。
山車による祭礼は、地区の災厄を払うため行われるようになったと伝わる。構造は名古屋型外輪形式で輪掛がついている。からくり人形「唐子」（2階）、「恵比寿」、「大黒と瓶（かめ）」（3階）を搭載。

内津
秋の大祭
内々神社
春日井市内津町24

御舞台（内津）
おまいだい

建造時期：天保8年。立川流（立川和四郎）の彫刻が飾られている。舞を奉納するので、御舞台（おまいだい）と名付けられている。現在は、舞の奉納や山車の巡行はせず、山車倉から出し、神社境内に置く。

犬山市

山車まつり情報

犬山祭は、当地の産土神を祀る針綱神社の祭礼であり、寛永12年（1635年）、尾張徳川家附家老である犬山城主成瀬隼人正正虎公の奨励で始まって以来、今日まで継承されています。祭りの主役は13輌の車山（やま）で、いずれも三層から成る豪華なものです。車山の上では江戸時代から伝わるからくり人形が操られ、様々な演技が奉納されます。また、手子連による豪快な曳き廻し（「どんでん返し」「車切」）や、お囃子方子供連の着用する金襴袢等が祭りに一層の華を添えます。夜には、車山に飾られた提灯に蝋燭の灯が灯され、夜桜の下の巡行が人々を夢幻の世界へと誘います。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

遊漁神（枝町）
ゆうぎょしん

建造時期：不明。当初、練り物等だったが、江戸中期ほぼ現在と同型の車山になったと推定。車輪と芯棒を除いた躯体は明治10年に他町から購入したもので、同12年に改修された。からくり人形「遊漁神」（伝佐藤金平）を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

眞先（魚屋町）
まっさき

建造時期：文化2年。当初、練り物等を出していたが、正保元年から車山になったと伝わる。明治初期まで一番車山であったためこの車山名が付いている。中山前面に采振り人形が載る。からくり人形「乱杭渡り」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

應合子（下本町）
おうごうし

建造時期：不明。当初は馬の塔だったが、寛永18年から車山になる（犬山祭に最初に車山を出したのは下本町であったと伝わる）。13町内で唯一、屋根に梵天を付けない。からくり人形「應合子」（文吉離三）を搭載。

名古屋の山車

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

西王母（中本町）
せいおうぼ

建造時期：不明。慶安2年から車山を出したと伝わる。上山欄間に「四神」の彫刻を飾る。からくり人形「西王母」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

住吉臺（熊野町）
すみよしだい

建造時期：文政7年。当初は、「佐与姫」という出し物（詳細不明）を出したと言われているが、慶安2年から車山になったと伝わる。犬山祭の13輌の車山の中で最大規模。からくり人形「住吉・白楽天」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

尾張の山車

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

浦嶌（新町）
うらしま

建造時期：明治6年以前。当初、練り物等だったが、文化8年までに船型車山となる。その後、他町と同型に変えたが、明治6年名古屋方面から2層の山車を購入。13輌の中で唯一の船型車山。からくり人形「浦嶌」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

咸英（本町）
かんえい

建造時期：慶応元年。当初、練り物等だったが、延享2年に車山となる。13輌中「最も豪華」と言われる。車山名は高価な材料と優れた工芸を施したという意味で名付けられた。からくり人形「唐子遊び」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

知多の山車

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

國香欄（練屋町）
こっこうらん

建造時期：万延元年。それまで使用していた車山は鍛冶屋町に譲渡、その後に一宮市今伊勢町馬寄に譲渡された。13輌中唯一、上山欄干が朱塗。中山正面に大房を掛けない。からくり人形「石橋獅子」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

壽老臺（鍛冶屋町）
じゅろうだい

建造時期：明治36年。当初、練り物等だったが、寛延2年までに車山となる。総素木造りで、漆、塗装、装飾金具を殆ど使用していない。懸魚に鳳凰、木鼻に獏と獅子があるが、柱間の彫り物等はない。からくり人形「石橋」を搭載。

西三河の山車

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

縫英（名栗町）
ほうえい

建造時期：不明。当初は大神楽だったが、元禄2年から車山となる。上山の欄干が漆塗りで、中山の欄干が素木。車山名は、縫い物が優れているという意味であると伝わる。からくり人形「菅原伝授手習鑑」（土井新三郎）を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

老松（寺内町）
ろうしょう

建造時期：不明。天保2年から3層車山になったと伝わる。13輌の中で唯一中山前方に一対の金の鯱がある。からくり人形「淡路嶋」（九代玉屋庄兵衛）は、糸からくりの変形人形で糸の数の多さは犬山で一番。

東三河の山車

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

宝袋（余坂）
ほうてい

建造時期：明治3年。文化10年から3層車山になったが、天保13年の大火で焼失。総素木造りで、彫り物も全体に素木仕上げ。中山前面に采振り人形（余坂のベロ出し人形）が載る。からくり人形「二福神」を搭載。

犬山
犬山祭
針綱神社
犬山市大字犬山字北古券65-1

梅梢戯（外町）
ばいしょうぎ

建造時期：明治10年に車輪と芯棒を除いて新造。延宝2年から車山を出している。華やかで豪華絢爛な装飾が特徴。本楽では、13輌の殿（しんがり）。からくり人形「梅梢戯」（九代玉屋庄兵衛）を搭載。

楽田
大縣神社例祭
大縣神社
犬山市字宮山3

稚児山（二ノ宮）
ちごやま

建造時期：文化13年。二階造りで屋根は障子屋根。天井と周囲に幕を取り付けて飾り、稚児などは二階へ乗り込む。平成21年から3年間、老朽化等により曳行を中断、その後改修により復活している。

小牧市

山車まつり情報

小牧市にある5輌の山車は、いずれも市の有形民俗文化財に指定されており、それらの山車が活躍する「春祭」と「秋葉祭」が、小牧神明社を舞台に開催されます。春祭は、神明社の本祭礼として、毎年、4月の第2日曜日に開催されます。その由来は、徳川義直が小牧山へ来遊したおり、神明社を吉祥の社として牡丹の造花を下賜し、子どもに持たせて歌舞謡踊させたことに始まると伝えられています。秋葉祭は、起源ははっきりとしませんが、小牧宿を火災から守ることを祈願した祭りだと考えられています。毎年、8月20日前後の土曜日に宵祭、日曜日に本祭が開催されます。

小牧
秋葉祭
小牧神明社
小牧市小牧5-153

唐子車（中町）
からこしゃ

建造時期：天明年間。金箔押格天井。中・下壇は桧角材を用い、側面はれんじ造り。中壇に欄干をつけ、采振り人形を置く。からくり人形「梅の木で倒立する小唐子」、「中唐子」、「采振り」（三代目玉屋庄兵衛）を搭載。

小牧
秋葉祭
小牧神明社
小牧市小牧5-153

聖王車（横町）
せいおうしゃ

建造時期：不明。江戸時代末～明治初め頃に枇杷島から購入。中・下壇は桧角材を用い、側面はれんじ造り。中壇に欄干をつけ、采振り人形を置く。からくり人形「聖王」（隅田仁兵衛）、「唐子」、「采振り」（五代目玉屋庄兵衛）。

小牧
秋葉祭
小牧神明社
小牧市小牧5-153

湯取車（上之町・片町）
ゆとりぐるま

建造時期：不明。名称は高欄部にあるからくり人形の神事による。中・下壇は桧角材を用い、側面はれんじ造り。からくり人形「笛吹き」、「太鼓打ち」、「神事をする巫子」と「神官」（六代目玉屋庄兵衛）。

小牧
秋葉祭
小牧神明社
小牧市小牧5-153

西王母車（下之町）
せいおうぼしゃ

建造時期：不明。名古屋市中区若宮神宮から譲渡されたと伝わる。中・下壇は桧角材を用い、側面はれんじ造り。中壇に欄干をつけ、采振り人形を置く。からくり人形「唐子」（竹田新助）、「采振り」（奥村秀次郎）。

小牧
春祭
小牧神明社
小牧市小牧5-153

小牧祭の山車（小牧神明社管内13町）
こまきまつりのだし

建造時期：寛文7年。上之町、下本町が各一輌の山車を建造するが、その後、傷みが激しくなり、昭和50年代に下本町の山車を土台として一輌にし、現在に至る。巡行はせず、山車上に舞台を造り、境内にて日本舞踊を披露。

稲沢市

山車まつり情報

稲沢市北市場町で行われているこがし祭りは、毎年7月第4土曜日に行われるお祭りです。諸説ありますが、江戸時代には川に山船を浮かべて祭りが行われていたと考えられます。その後、川の流路の変更により山車の曳き廻しとなりました。この山車2台は市指定有形民俗文化財に指定されています。また、近年は山車の曳き廻しは行われていませんでしたが、修理を行い平成27年のお祭りでは42年ぶりに曳き廻しを行いました。稲沢市にはこのほかにも国指定文化財24件、県指定文化財34件をはじめとする多くの文化財が存在します。詳しくは市のホームページをご覧ください。

北市場本郷
こがし祭り
立部神社
稲沢市北市場本町2-4-1

山車（北市場上）
だし

建造時期：江戸末期。真竹に1年の月数の提灯「心」をつける。真竹を支える枕には提灯「小丸」60個。枕から中央に「御幣」、右に町内安全の「七つ」、左に「御神心」の提灯がつく。1層の周りを飾る提灯の図柄は織田信長の家紋。

名古屋の山車

北市場本郷
こがし祭り
立部神社
稲沢市北市場本町2-4-1

山車（北市場下）
だし

建造時期：明治初期。真竹に1年の月数の提灯「心」をつける。真竹を支える枕には提灯「小丸」60個。枕から中央に「御幣」、右に町内安全の「七つ」、左に「御神心」の提灯がつく。1層の周りを飾る提灯の図柄は織田信長の家紋。

尾張の山車

岩倉市

山車まつり情報

岩倉市には、山車毎に2種類のからくり人形をもつ3台の山車があり、本来は3台とも神明大一社の「岩倉祇園祭」の山車でした。その歴史は、寛永2年（1625年）に下本町山車、寛永3年（1626年）に中本町山車、寛永6年（1629年）に大上市場山車が作られたことに始まります。明治時代に、山車のある地区それぞれの神社の祭礼となり、その後一時的に途絶えましたが、平成3年より揃い曳きが復活しています。現在は、夏には3地区の天王祭・祇園祭の山車曳きを統一した夏まつりで提灯に彩られた山車を、春には岩倉市の名所である五条川の桜と山車をご覧いただけます。

大上市場
天王祭
新溝神社
岩倉市本町西1

大上市場山車（大上市場）
おおかみいちばだし

建造時期：寛永6年。別称「唐子車」。3層構造、車輪に格子状輪懸のある犬山・名古屋型の折衷。からくり人形「肩上倒立」（2体。四本柱内）、「乱杭渡り」（四本柱内）、「ザイフリ」（二層目）を搭載。

知多の山車

中本町
祇園祭
神明大一社
岩倉市中本町西出口4

中本町山車（中本町）
なかほんまちだし

建造時期：寛永3年。3層構造、車輪に格子状輪懸のある犬山・名古屋型の折衷。からくり人形「那須与一」（四本柱内）、「チリリ」（2体。四本柱内）、「ザイフリ」（二層目）を搭載。

下本町
祇園祭
神明生田神社
岩倉市下本町下市場25

下本町山車（下本町）
しもほんまちだし

建造時期：寛永2年。3層構造、車輪に格子状輪懸のある犬山・名古屋型の折衷。別称「杉山」は屋根の北西柱に杉枝を縛りつけることによる。からくり人形「菅丞相」（2体）、「唐子遊」（2体）、「幣振り」（二層目）を搭載。

西三河の山車

日進市

山車まつり情報

岩藤町天王祭は、毎年7月下旬の日曜日に行われている岩藤神明社の祭礼です。日進市唯一の山車である市指定有形民俗文化財「岩藤天王祭山車（チョウチングルマ）」を神楽台による演奏とあわせて曳き廻しをします。

岩藤
岩藤天王祭
神明社
日進市岩藤町所寒525

岩藤天王祭山車（岩藤町）
いわふじてんのうまつりだし

建造時期：明治24年。
上層後の幕はえんじに金の刺繍、下層左右の幕は武者絵、下層前後の幕はえんじに金の刺繍。昭和12年を最後に中止されていたが、昭和56年に復活した。チョウチングルマとも呼ばれる。

東三河の山車

清須市

山車まつり情報

尾張西枇杷島まつりは、享和2年（1802年）が始まりとされ5輌の山車が曳かれます。山車は二層外輪で前山（棚）に前人形、上山に3体のからくり人形を乗せた「名古屋型」の山車です。見どころはお囃子にあわせたからくり人形の妙技と勇壮な山車の曳き廻しです。朝日の天王まつりは、子どもの悪疫退散を願い、火串に提灯をつけ祭ったことに始まります。宝暦12年（1762年）に山車を造り、幕・ハナ・提灯で飾り、御幣振り・小4以上の男子・囃子方を乗せ、梶方と村人の力で天王社から愛宕社に、日暮れて再び天王社へと曳かれました。今は飾り付け・点灯のみとなりました。

西枇杷島
尾張西枇杷島まつり
橋詰神社
清須市西枇杷島地区美濃路沿道

王義之車（橋詰町）
おうぎししゃ

建造時期：享和2年（森藤九郎）。幕板飾りは金箔置の彫刻で上段が「獅子」、中段が「波と龍」。中段の欄間の彫刻は「鶴」、上段は王羲之の故事にちなみ「鵞鳥」。からくり人形は「王義之」、「大唐子」、「小唐子」、「前人形」。

西枇杷島
尾張西枇杷島まつり
橋詰神社
清須市西枇杷島地区美濃路沿道

頼朝車（問屋町）
よりともしゃ

建造時期：享和2年。幕板飾りは彫金で源頼朝にちなみ由比ヶ浜の松、貝等。欄間彫刻は「花」、「貝と波」（片桐兵助尹壽）。からくり人形「源二位（源頼朝）」、「白拍子（静御前）」、「臣下」、「前人形」。楫方に「木遣り」が受け継がれる。

西枇杷島
尾張西枇杷島まつり
六軒神社
清須市西枇杷島地区美濃路沿道

泰亨車（東六軒町）
たいこうしゃ

建造時期：文化2年。幕板飾りは金箔置の彫刻で中段が「四神」、上段が「千疋猿」。欄間は「浪犀」。「惜車」を両側につけ屋根を上下することで矢車と歯車が旋回。からくり人形「僧正坊」、「牛若丸」、「木ノ葉天狗」、「前人形」。

西枇杷島
尾張西枇杷島まつり
六軒神社
清須市西枇杷島地区美濃路沿道

紅塵車（西六軒町）
こうじんしゃ

建造時期：享和2年（森藤九郎）。幕板飾りは金箔置の彫刻で中段・上段とも「龍」。欄間は「梅」の図柄（早瀬長兵衛）。からくり人形「関羽」、「太鼓撃唐子」、「鳥舞唐子」、「前人形」（玉屋庄兵衛）。

西枇杷島
尾張西枇杷島まつり
神明社（二ツ杁）
清須市西枇杷島地区美濃路沿道

頼光車（杁西町）
らいこうしゃ

建造時期：明治4年。幕板飾りは彫金で中段が「波濤」で上段が「竜に雲」。欄間の図柄は「山地に笹」。からくり人形「源頼光」、「渡辺綱」、「坂田公時（金時）」、「熊」、「前人形」。源頼光が足柄山で金太郎を四天王に加えた故事に因む。

朝日
天王まつり
朝日天王社
清須市朝日天王90

試楽車（朝日）
しがくしゃ

建造時期：宝暦12年頃。村の若者24名が奉納。彫刻等はない。唐破風下に織田の木瓜紋。二階から上に心柱を立て提燈12個、屋根周りにも一年をあらわす365個を吊るす。屋根前方には、「ハナ」と呼ぶ桔梗の花型を榎の枝につけたものを飾る。

長久手市

山車まつり情報

前熊の天王祭りは、多度神社に合祀されている津島神社のお祭りで、400年近い歴史があります。日が沈むころ津島神社の灯明を上げ、まつりが始まります。長久手市有形民俗文化財に指定されている「前熊の山車」の提灯に火が灯り、山太鼓が奉納され、打ち囃し太鼓も山車のある多度神社に向かいます。大太鼓や小ばちを竹竿で吊り演奏しながら歩く道中には、地元の子ども達が描いた角行灯が参道まで並びます。多度神社から山車を曳き出す際には、山太鼓や打ち囃し太鼓にも力が入ります。夏の夕暮れ、田園風景の中で行われる、古くから前熊に伝わる素朴なお祭りです。

前熊
天王祭り
多度神社
長久手市前熊志水108-1

前熊の山車（前熊）
まえぐまのだし

建造時期：不明。文化2年、現名古屋市東区出来町で所有していた山車を譲り受けたと伝わる。彫刻「丸形の龍」（高欄下）。水引幕は花柄、大幕は龍柄。名古屋型山車に似るが、上山前方にサイフリ棚が無く、塗装金具等が使われていない。

津島市

山車まつり情報

津島市には7月の第4土曜日とその翌日の日曜日に行われる尾張津島天王祭と、10月の第1日曜日とその前日の土曜日に行われる尾張津島秋祭りがあります。尾張津島天王祭は車楽舟行事として国の無形民俗文化財に愛知県として初めて指定されたお祭りです。宵祭はまきわら舟に提灯が飾られ幻想的で、翌日の朝祭は装いも変えた車楽舟は絢爛豪華で市江車から裸の若者が川に飛び込む姿は、見る者の心に感動をあたえます。秋祭りは山車が、からくり人形や車切を披露し、石採祭車は鉦や太鼓を奏で、賑やかにまちを練り歩きます。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町1等

北町山車（北町）
きたまちぐるま

建造時期：正徳元年。享保3年からの巡行と伝わる。彫刻「龍紋」（基壇。漆と金箔仕上げ）。下段勾欄前部に雄松・雌松枝を飾る。大幕は猩々緋地に金糸で北町と刺繍。水引幕は浅葱地に雲鶴を金刺繍からくり人形「唐子遊」を搭載。

名古屋の山車

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

米之座山車（米之座町）
こめのざぐるま

建造時期：正徳元年。享保３年からの巡行と伝わる。大幕は猩々緋地に金糸で米之座と刺繍、水引幕は紺羅紗に白虎、鳳凰、青龍、玄武の４神が金刺繍。からくり人形「高砂と神官」を搭載。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

高屋敷山車（高屋敷町）
たかやしきぐるま

建造時期：正徳元年。享保３年からの巡行と伝わる。彫刻「龍」（屋根虹梁等）「松竹梅に獅子舞」（基壇。金箔）。大幕は猩々緋地に金糸で高屋敷と刺繍。水引幕は紺青地に龍を金刺繍。からくり人形「唐子の面かぶり」を搭載。

尾張の山車

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

布屋町山車（布屋町）
ぬのやちょうぐるま

建造時期：正徳元年。享保３年からの巡行と伝わる。彫刻「龍」（屋根の虹梁等）、「松竹梅に獅子舞」（基壇。金箔）、輪懸けは漆喰塗。大幕は猩々緋、水引幕は鶯茶地に唐獅子が金刺繍。からくり人形「二福神　恵比寿と大黒天」を搭載。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

麩屋町山車（麩屋町）
ふやまちぐるま

建造時期：正徳元年。享保３年からの巡行と伝わる。大幕は猩々緋、前幕には麩屋町と金刺繍。水引幕は黒地に注連縄が金刺繍。からくり人形「湯取神子」を搭載。

知多の山車

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

小之座山車（天王通り）
おのざぐるま

建造時期：正徳元年。享保３年からの巡行と伝わる。彫刻「雲龍」（金箔）。前幕は猩々緋地に雅楽蘭陵王の舞の金刺繍。側面左右に異なる雅楽面、水引幕は雅楽楽器が刺繍。からくり人形「獅子舞と唐冠の太閤」を搭載。現在、巡行休止中。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

池町山車（池町）
いけまちぐるま

建造時期：正徳元年。享保３年からの巡行と伝わる。各所が黒漆地に金箔仕上げ。彫刻「鳳凰」、「雲水」（金箔仕上げ）。大幕は猩々緋で波上に鶴、水引幕は黄櫨染地。からくり人形「倒立唐子遊」を搭載。

西三河の山車

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

朝日町山車（今市場町）
あさひまちぐるま

建造時期：不明。安政４年からの巡行と伝わる。基壇に金箔仕上げの彫刻。大幕は猩々緋地の羅紗で、前幕には金糸で朝日町と刺繍。水引幕には猩々緋地に注連縄の文様が刺繍。からくり人形「湯立神子」を搭載。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

小中切山車（今市場町）
こなかぎりぐるま

建造時期：不明。安政４年からの巡行と伝わる。大棟両端に鯱。彫刻「三頭の龍」（四面）、「雲」（上段勾欄）。大幕は猩々緋、後幕に縁に蓮の金刺繍の御簾。水引幕は黄緑地に狂獅子と鳳凰刺繍。からくり人形「住吉明神」を搭載。

東三河の山車

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

大中切山車（今市場町）
おおなかぎりぐるま

建造時期：不明。安政４年から車を飾ったと伝えられている。彫刻「青龍、朱雀、白虎、玄武」（基壇）。大幕は猩々緋、水引幕は鶯茶地で雲龍が刺繍されている。からくり人形「翁と唐子遊び」を搭載。現在、巡行休止中。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

馬場町山車（馬場町）
ばばちょうぐるま

建造時期：不明。天明２年からの巡行。懸魚は鳳凰。四本柱上部平桁には牡丹唐草、波頭には兎や獅子の木鼻。彫刻「菊に唐草模様」、「七宝物」等、多数。大幕は猩々緋、水引幕は濃紺地に群鳩の刺繍。からくり人形「大黒」を搭載。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

中町山車（中之町）
なかまちぐるま

建造時期：不明。天明２年から車を飾ったと伝わる。四本柱上部平桁には雲の蟇股や獅子の木鼻。彫刻「雲龍」（基壇。金箔で装飾）。大幕は猩々緋、水引幕は薄茶色に雲龍の刺繍。からくり人形「唐子の文字書き」を搭載。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

上町山車（上之町）
かみまちぐるま

建造時期：不明。天明２年から車を飾ったと伝えられている。彫刻「雲龍」（基壇周囲）。大幕は猩々緋で上町と刺繍されている。水引幕は紫紺地で、波に千鳥刺繍。からくり人形「綾渡りからくり」を搭載。

津島
津島秋祭
憶感神社等
津島市上町36等

南町山車（神守町下町）
みなみまちぐるま

建造時期：宝暦５年以前。彫刻「群舞する鳩」（勾欄）。大幕は猩々緋で南町と刺繍、水引幕は黒羅紗地に雲と龍の浮かし上がり刺繍。中壇勾欄左右に立ち柳、前棚両端に枝垂れ柳に桜飾。後部に松飾２本。からくり人形「寿老人」を搭載。

津島
津島秋祭
憶感神社等
津島市上町36等

中町山車（神守町中町）
なかまちぐるま

建造時期：宝暦５年以前。彫刻「鳳凰」（勾欄）、「龍」（基壇）。「獅子と白木の糸手毬」（中段勾欄下部）。大幕は猩々緋、水引幕は雲龍の浮かし上がり刺繍。からくり人形「林和靖」を搭載。

津島
津島秋祭
憶感神社等
津島市上町36等

上町山車（神守町上町）
かみまちぐるま

建造時期：宝暦５年以前。中央に輪宝紋、両側に龍が描かれる。大幕は猩々緋に上町と刺繍、水引幕は黒地に雁の浮かし上がり刺繍。中壇勾欄左右に立ち柳、前棚両端には枝垂れ柳に桜飾。後部に松飾２本。からくり人形「関羽」を搭載。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

津島秋祭北部有志石採祭車（北部）
つしまあきまつりほくぶゆうしいしどりまつりぐるま

建造時期：幕末期。桑名住吉町から大正５年に購入。天幕絵柄は「神武天皇」と「金鶏」。大正15年に津島神社が県社から国幣小社に昇格したのを奉祝して、山車祭と石採祭が合同で行われるようになった。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

津島秋祭南部有志石採祭車（南部）
つしまあきまつりなんぶゆうしいしどりまつりぐるま

建造時期：弘化３年。桑名深谷十二町から大正５年に購入。天幕絵柄は「建速須佐之男命の八岐大蛇退治」。大正15年に津島神社が県社から国幣小社に昇格したのを奉祝して、山車祭と石採祭が合同で行われるようになった。

津島
津島秋祭
津島神社等
津島市神明町１等

津島秋祭中部有志石採祭車（中部）
つしまあきまつりちゅうぶゆうしいしどりまつりぐるま

建造時期：幕末期。桑名今片町から大正６年に購入。天幕絵柄は「竹の虎」。亀腹の谷超獅子の彫刻あり。大正15年に津島神社が県社から国幣小社に昇格したのを奉祝して、山車祭と石採祭が合同で行われるようになった。

津島
津島秋祭
唐臼神社等
津島市唐臼町字柳原1400等

津島秋祭唐臼町石採祭車（唐臼町）
つしまあきまつりからうすちょういしどりまつりぐるま

建造時期：鉦に昭和22年の刻印有。桑名市の外堀北車を購入。天幕は赤地に星梅鉢（桑名藩主松平氏の家紋）が白く染め抜かれている。大正15年に津島神社が県社から国幣小社に昇格したのを奉祝して、山車祭と石採祭が合同で行われるようになった。

津島
尾張津島天王祭
津島神社・天王川公園
津島市神明町１

下車
しもぐるま

建造時期：不明。巻藁舟（宵祭）：屋形に真柱（如意）を立て、１年の月数12個の提灯を付ける。巻藁台に提灯を付けた3mの竹竿を１年の日数を刺して山型半球状に成型。車楽舟（朝祭）：屋台に屋台幕・水引幕、紅白梅花や松、能人形を飾る。

津島
尾張津島天王祭
津島神社・天王川公園
津島市神明町１

堤下車
とうげぐるま

建造時期：不明。巻藁舟（宵祭）：屋形に真柱（如意）を立て、１年の月数12個の提灯を付ける。巻藁台に提灯を付けた3mの竹竿を１年の日数を刺して山型半球状に成型。車楽舟（朝祭）：屋台に屋台幕・水引幕、紅白梅花や松、能人形を飾る。

津島
尾張津島天王祭
津島神社・天王川公園
津島市神明町１

米車
こめぐるま

建造時期：不明。巻藁舟（宵祭）：屋形に真柱（如意）を立て、１年の月数12個の提灯を付ける。巻藁台に提灯を付けた3mの竹竿を１年の日数を刺して山型半球状に成型。車楽舟（朝祭）：屋台に屋台幕・水引幕、紅白梅花や松、能人形を飾る。

津島
尾張津島天王祭
津島神社・天王川公園
津島市神明町１

今車
いまぐるま

建造時期：不明。巻藁舟（宵祭）：屋形に真柱（如意）を立て、１年の月数12個の提灯を付ける。巻藁台に提灯を付けた3mの竹竿を１年の日数を刺して山型半球状に成型。車楽舟（朝祭）：屋台に屋台幕・水引幕、紅白梅花や松、能人形を飾る。

津島
尾張津島天王祭
津島神社・天王川公園
津島市神明町１

筏場車
いかだばぐるま

建造時期：不明。巻藁舟（宵祭）：屋形に真柱（如意）を立て、１年の月数12個の提灯を付ける。巻藁台に提灯を付けた3mの竹竿を１年の日数を刺して山型半球状に成型。車楽舟（朝祭）：屋台に屋台幕・水引幕、紅白梅花や松、能人形を飾る。

愛西市
山車まつり情報
毎年７月第４土曜日とその翌日に実施される尾張津島天王祭（市江車行事）は、500年以上の歴史を誇る古式ゆかしい祭礼です。本祭は宵祭と朝祭より成り、朝祭の主役を務めるのが市江車です。津島の五車の先車をつとめ、毎年くじによって選ばれる能人形や家康拝領の品々等によって絢爛豪華に飾られた車楽舟が、奏楽団の奏でる楽にのり、祭の舞台となる天王川公園の池の中ほどに至ると、10人の鉾持ちがあらわれ、池に飛び込む姿はまさに勇壮で祭のクライマックスと言えましょう。天王祭をご覧の際にはぜひご注目下さい。

津島
尾張津島天王祭
津島神社・天王川公園
津島市神明町１

市江車
いちえぐるま

建造時期：不明。２艘の舟を並べた上に屋形を置き、その上に２層の屋台を載せた舟山車。尾張津島天王祭で巡航する舟で唯一、愛西市から出る。津島の５車より大きく、朝祭では先頭を担い、10人の鉾持ちが乗船する。能人形が飾られる。

弥富市
山車まつり情報
弥富市では、毎年10月第１日曜日と第２日曜日を中心に、秋祭りが行われています。ほとんどの町内が、それぞれ石取車や神楽屋形を所有しており、地元の氏神へ奉納を行います。これらの祭は、江戸時代から始められ、神楽屋形の中には江戸時代作の物も見られます。石取車は、神楽屋形を所有しない地域が、その代わりとして、隣接する桑名から購入したことが始まりで、13輌もの石取車が現存します。華やかな彫刻や細やかな図柄の天幕の石取車を、太鼓や鉦を激しく打ち鳴らしながら曳き廻すのが見どころで、その音色から「ドンチキチン」とも呼ばれています。

鯏浦
弥富神社大祭
弥富神社
弥富市鯏浦町上本田135

石取車（前新田）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

鯏浦
弥富神社大祭
弥富神社
弥富市鯏浦町上本田135

石取車（中六町）
いしどりぐるま

建造時期：昭和40年代。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

鯏浦
弥富神社大祭
弥富神社
弥富市鯏浦町上本田135

石取車（小島弥生台）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

鯏浦
弥富神社大祭
弥富神社
弥富市鯏浦町上本田135

石取車（東弥生台）
いしどりぐるま

建造時期：不明。屋根の付く屋台車の中に乗り、囃しを行っており、その型式は桑名石取祭の祭車とは異なる。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

楽平
楽平神社大祭
楽平神社
弥富市楽平２丁目地内

石取車（楽平）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

前ヶ平
神明社大祭
前ヶ平神明社
弥富市前ケ平１丁目地内

石取車（前ケ平）
いしどりぐるま

建造時期：平成13年。桑名で新調された。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

東中地
秋葉社大祭
秋葉社
弥富市東中地２丁目地内

石取車（東中地）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

東中地
秋葉社大祭
秋葉社
弥富市東中地２丁目地内

石取車（西中地）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。昭和56年、桑名大福東宮前組（八重垣町）から譲渡。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

五明
神明社大祭
五明神明社
弥富市五明３丁目地内

石取車（五明）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。桑名栄町の祭車であったとされる。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

前ヶ須
素盞之男大祭
素盞之男社
弥富市前ケ須町小前ケ須72

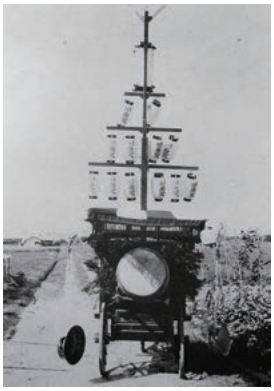
石取車（前ケ須）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

中山
津島社大祭
津島社
弥富市中山町本山43

石取車（中山）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。近年では、老朽化のため巡行されない年もある。



川原欠
川原欠社大祭
川原欠社
弥富市川原欠４丁目地内

石取車（川原欠）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

大谷
神明社大祭
大谷神明社
弥富市大谷１丁目地内

石取車（大谷）
いしどりぐるま

建造時期：不明。昭和48年に中六から譲り受けた。桑名石取祭の祭車と同じ型をしている。石取車に付随する太鼓・鉦は、その音から「ドンチキチン」とも呼ばれる。神楽太鼓と異なり、一般的な木のばちを用いる。

五斗山
大祭
熱田神社
弥富市五斗山3-127

石取車（五斗山）
いしどりぐるま

建造時期：不明。桑名石取祭の祭車と同じ型をしているが、柱の頂点には四角い行灯があり、後部に石取太鼓と鉦の代わりに、神楽太鼓を据える。ばちは、木製だと音が出ないので細く割った竹のばちを使う。

あま市

山車まつり情報

あま市では山車まつりが2ケ所で行われており、それぞれの地区の主体により執り行われています。いずれの山車・まつりの規模も大きくは無いのですが、地域のまつりとして大いに賑わっています。あま市には甚目寺地区には甚目寺観音や萱津神社等の名所旧跡、美和地区には蜂須賀小六ゆかりの蓮華寺や福島正則ゆかりの菊泉院といった戦国武将と関係の深い寺院があり、七宝地区には七宝焼を展示している七宝焼アートヴィレッジ等の見どころが多数あります。

木田
山車揃え
八剣社
あま市木田宮東16

小島町
こじまちょう

建造時期：大正11年。小島町有志が小牧方面の山車を手本に大工早川金一、指物師萩野悦一、早川新一によって建造。その後東町、本町、宮町、寺町、東新町の順に建造。桑名石取祭にならったお囃子。かざり人形男女一対を搭載。

木田
山車揃え
八剣社
あま市木田宮東16

東町
あずまちょう

建造時期：不明。大正11年、小島町有志が山車を建造したのを契機に、山内明利、杉藤乙松、土田倉太郎、伊藤喜一、日比重雄、早川美太郎が中心となって建造。かざり人形男女一対を搭載。

木田
山車揃え
八剣社
あま市木田宮東16

本町
ほんまち

建造時期：不明。大正11年、小島町有志が山車を建造したのを契機に東町に続いて建造。かざり人形男女一対を搭載。

木田
山車揃え
八剣社
あま市木田宮東16

宮町
みやまち

建造時期：不明。大正11年、小島町有志が山車を建造したのを契機に本町に続いて建造。かざり人形男女一対を搭載。

木田
山車揃え
八剣社
あま市木田宮東16

寺町
てらまち

建造時期：不明。大正11年、小島町有志が山車を建造したのを契機に宮町に続いて建造。かざり人形男女一対を搭載。

木田
山車揃え
八剣社
あま市木田宮東16

東新町
とうしんちょう

建造時期：不明。大正11年、小島町有志が山車を建造したのを契機に寺町に続いて建造。かざり人形男女一対を搭載。

甚目寺
天王祭
江上社
あま市甚目寺郷浦45

江上天王宮（甚目寺）
えがみてんのうぐう

建造時期：平成15年。往古の山車は解体され、戦後からは「仮」の山車で祭礼が行なわれる。平成12年、往古の山車部材が倉庫の屋根裏から発見され、平成15年4月に伝統工法を採用して復元。からくり人形「老宮司」を搭載。

蟹江町

山車まつり情報

須成祭は冨吉建速神社・八剱社の祭礼として、牛頭天王信仰のもと夏の疫病退散と五穀豊穣を願って行われてきました。400年あまり前から続き、国の重要無形民俗文化財に指定されています。宵祭では提灯をつけた巻藁船が、朝祭では人形を乗せた車楽船が蟹江川に浮かび、祭囃子を奏でながらゆっくりと川を上るさまは、優雅な船の姿と自然が調和した美しい情景を楽しませてくれます。途中にある御葭橋に船が差し掛かると、船を通すために橋が上るのも、一つの見どころとなっています。水郷ならではの川祭りの風情を味わっていただける祭りです。

須成

須成祭

冨吉建速神社・八剱社

海部郡蟹江町大字須成字門屋敷上1363

車楽船

だんじりぶね

建造時期：昭和47年。鋼鉄船2艘を繋げた上に木造の舞台や屋根が載る。宵祭では一年の日数の提灯を半球状に飾り巻藁船とする。朝祭では提灯を外し、伊弉諾尊・伊弉册尊の人形を安置し、和紙で作った梅花・桜花を飾る。